

彙報

○令和元年度卒業論文

花散里論―人間関係をめぐる知性―

浅野圭亮

変身譚としての『山月記』

伊與田晶将

△執心▽と△逸脱▽の落語史

清水大輔

物語と月の世界についての研究―『竹取物語』を中心

に―

富田大智

清原深養父の歌風と特質

中濱愛香音

『蜻蛉日記』道綱母と和歌世界―心・身に着目して―

藤江美羽

『徒然草』故実章段論―「知れる人なし」をめぐって―

藤田彩友

『徒然草』における「はらあしき人」

山口 桃

『枕草子』における幼い子どもの描写について

AN Yanfang

「あくがる」の史的変遷

今田早紀

カギ括弧の使用状況―発話を引用しないタイプを中心に―

利川果奈子

「あきらむ」の歴史的変遷

鳥山紗希

動詞「のしる」の意味用法の変遷について

ウラウラ・ウララ・ウララカの史的展開

早川結斗

「ウラハジメテ」の例示用法に関する研究

榎本大湖

接尾語「ばむ」の史的変遷

近藤由起

シドロからシドロモドロへの変遷

酒井彩佳

接続表現「ものなら」の様相とその確立

柴田一輝

形容詞カハユシの歴史的変遷

高井裕也

「さすが」と「さすがに」の史的変遷

樟木さやか

副詞「やおら」について

永田美幸

モテナスとフルマウの使い分けの史的変遷

野田祐美

「みるみる」の史的変遷

泉山千広

「うべ」の歴史的変遷に関する考察

福本小夏

○令和元年度修士論文

山東京伝作品と東国の伝承・風俗

村山皓紀

山東京伝黄表紙研究―『人間一生胸算用』を中心に―

権田かえで

『源氏物語』における女君の造型と方法―朝顔の姫君

と花散里をめぐって

佐藤翔子

『源氏物語』における光の機能

宮原充生

「ナニモ」の機能変化について

吉川由佳子

ソレデハの歴史的变化

遠藤美里

加藤美嶺

サ系接続表現の史的展開―サラバ・サヨウナラ(バ)を例に

川村祐斗

貝原好古著『和爾雅』の研究―動植物名名の検討を中心に
鬼頭祐太

○平成三十一年(令和元年)四月から令和二年三月、次の方々が博士学位を取得された。

△課程博士▽

無意志自動詞を出自とする日本語可能表現の歴史的研究
三宅俊浩

雑誌『満蒙』における文芸とその時代…在満日本人の満州観を視座にして
王 占一

○本年四月一日現在、日本文学研究室には、学部二年生七名、三年生五名、四年生六名、大学院前期課程三名、後期課程五名の計二六名(内、留学生〇名)、日本語学研究室には、学部二年生七名、三年生七名、四年生一四名、大学院前期課程一〇名、後期課程七名の計四五名(内、留学生七名)が在籍している。

○令和二年度 大会

日時 十二月十二日(土)

場所 オンライン

△研究発表▽ 十時～十二時三十分

「林義端『玉櫛笥』における『輟耕録』の利用と執筆手法」
森 翔大

「元禄期の辞書『和爾雅』における振り仮名について―先行書との比較を通じて―」
鬼頭祐太

「覚鑿上人における不動明王伝説の系譜」
郭 佳寧

「疫病と日本文学」
司会(コーディネーター) 日比嘉高(名古屋大学)

パネリスト 大井田晴彦(名古屋大学)
塩村 耕(名古屋大学)

島村 輝(フェリス女学院大学)

△総会▽ 十七時～
(詳細は改めてお知らせいたします)

○本誌への投稿をお待ちしています。投稿規定は次の通りです。

一、投稿資格 本学会員

二、枚数 出上来がり原稿にて十四頁(縦書きは

二十五字×二十二行×二段組/頁、横書きは三十七字×三十行/頁)以内を

厳守。但、審査の過程で加筆の必要が生じ、結果として掲載時に十四頁を超過する場合もある。

三、原則としてメール添付による投稿とする。ただし、メール添付に不都合がある場合、電子媒体の郵送による投稿も可とする。手書き原稿の場合は事務局に相談すること。

四、データはワード文書もしくはテキストファイル形式を原則とする。

五、論文には二百字程度の要旨を添え、末尾に①論文のキーワード（三〜五語）、②英文タイトル、③英文表記氏名、を付け加えること。論文と要旨等とは別ファイルとする。

六、投稿に際しては、メール添付の論文ファイル・要旨ファイルのほか、必ずプリントアウトした原稿と要旨を各三部提出すること。特殊文字・罫線等や割付けは、この原稿にしたがって版を組む。

七、審査はプリントアウトした完成原稿によって行う。

八、原稿の採否は編集委員の採否を経て運営委員会が決定する。

九、原稿の採否の問い合わせには応じない。

十、投稿原稿は返却しない。

十一、電子化に賛同する方。

※一三号より会誌を電子媒体でも発行するため。

付記、次号（二一四号）の締切は二〇二二年五月十一日です。

メール送付先 nagoyadaiokoku2gakukai1909@gmail.com

※二〇一九年九月に旧アドレスから変更いたしました。

郵送先 〒四六四一八六〇一

名古屋市千種区不老町 名古屋大学文学部内

名古屋大学国語国文学会

○編集委員（五十音順）

飯田祐子・大井田晴彦・齋藤文俊・榊原千鶴・塩村

耕・近本謙介・日比嘉高・宮地朝子

○本号の刊行に際しての実務担当委員は以下の通りです。

榎本大湖・遠藤美里・奥村華子・勝倉明以・勝部美星・

川村祐斗・キューンミッシェル・後藤麻嘉・丹羽 叶・

畠中愛美・前田智子・眞野道子・吉本裕史

○令和元年度より会費負担軽減と会計処理簡素化のため、会費のハガキ領収書を省略いたしました。ご希望の方

には発行いたしますので、その旨事務局までお申し出
ください。

○随時学会員を募集しています。本会の会費は、一般会
員年二千円、賛助会員年三千円です。一般会員には
「名古屋大学国語国文学会会報」、賛助会員には会報と
「名古屋大学国語国文学」が配布されます。

訃報

二〇二〇年六月五日に野田千平先生が
逝去されました

謹んでお悔やみ申し上げます